



「NOVO Demi-sec (のぼドゥミセック)」。点字でワイン名が書かれている。NOVOとは「陽はのぼる。美しき泡、立ちのぼる」の意。青りんごや洋梨の香りと、広がりのある香ばしさが楽しめる珠玉の1本

く、心穏やかになれる場所だ。陽光を浴びながら飲むのは、このワイナリーのスパークリングワイン「NOVO」。NOVOは、本格的なシャンパーニュ方式で造られたスパークリングワインで、甘美な香りにとっしりとした力強さと複雑さを兼ね備え、それでいて優雅で繊細な味

わいを楽しませてくれる。グラスの中を勢いよく立ちのぼる燐めく泡とグラス越しに見える葡萄畑を眺めながら、この地で重ねられた時に思いを馳せた。
ココ・ファーム・ワイナリーは栃木県足利市の北部にある。東武伊勢崎線の足利市駅から北へ進み、渡良



初夏の頃よりふくらみ始める葡萄の実は、お盆を過ぎたあたりから晩秋にかけて収穫され、11月にはワインとなる

瀬川を越えて市外地を抜けると、足尾山地の山間に葡萄畑が見えてくる。山を開墾して作ったこの葡萄畑のワイナリーは、知的障害を持った人達のための支援施設「こころみ学園」が母体。美味なるワイン造りに日々励むのは、こころみ学園の園生達だ。
「いつか寝食をとみにして、一緒に暮らしていきけるような場所を作りたい」。1950年代、中学校の特殊学級の教員をしていた川田昇さんは、卒業しても行く先のない子供達を見てそう願っていた。彼らへの思いは1968年、行動へと変わり、川田さんは9人の仲間達と知的障害を持つ人達のための施設作りを始めた。翌年、認可を受けた「こころみ学園」は30人の園生でスタート。葡萄とシイタケの栽培を中心とした農作業を通じ、園生の自立を目指した。しかし、急勾配の土地を開墾することから始まった農作業は、園生達に

ココ・ファーム・ワイナリーの奇跡
スパークリング
ワイン
「NOVO」
HAPPY
DRINKING

◎ 栃木県・足利市

太陽の光が眩しい初夏の昼下がりに。「ココ・ファーム・ワイナリー」のカフェのオープンテラスでは、誰もがワインを片手に、あふれる笑顔で楽しそうに語り合う。目の前には、秋にたわわに実をつける葡萄畑が、今は色鮮やかな緑一面の急峻の丘となって、見渡す限りに広がっている。「こんなところが日本にあったんだ」と思うほど美し